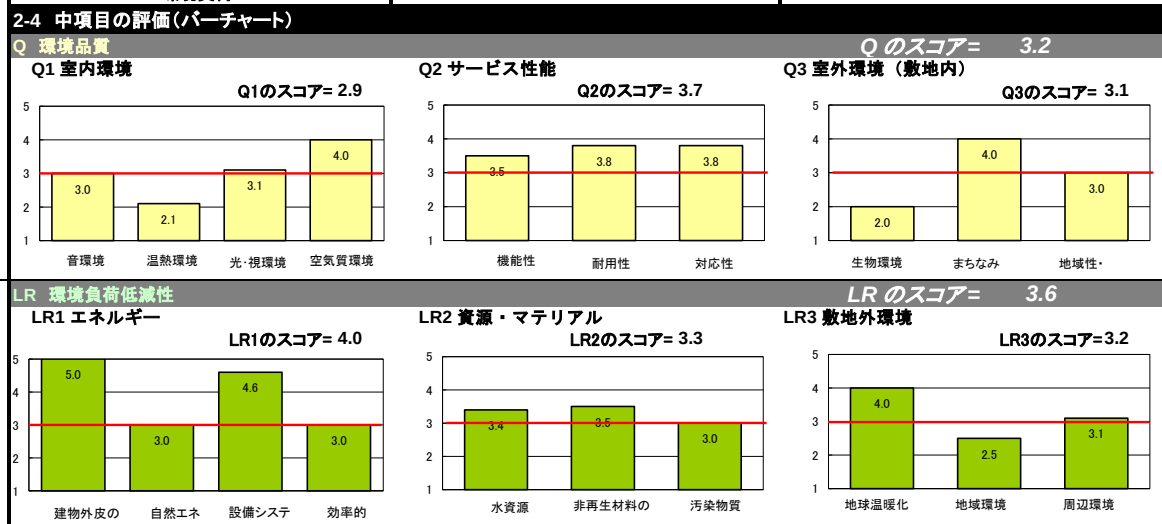
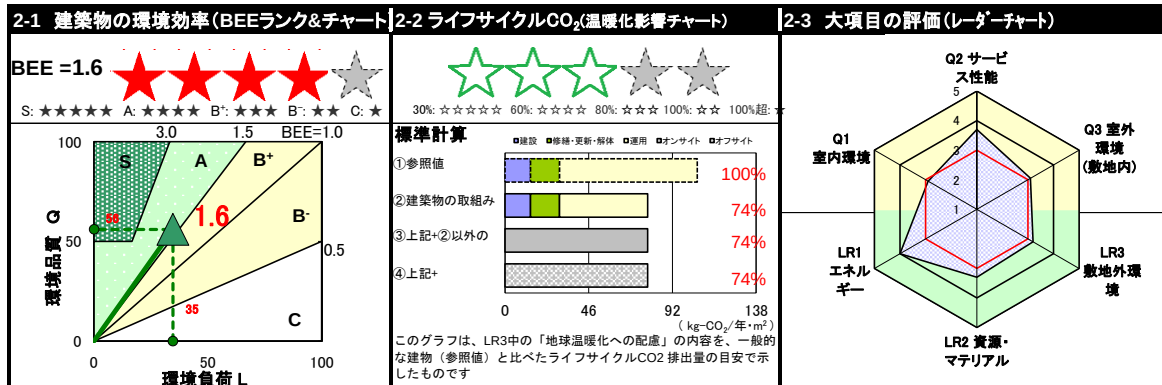


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)江南市多世代交流プラザ		階数	地上3階
建設地	愛知県江南市古知野町宮裏121番		構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	453 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2024年12月1日	
敷地面積	2,246 m ²	作成者	金沢俊洋	
建築面積	1,183 m ²	確認日	2024年12月1日	
延床面積	3,093 m ²	確認者	金沢俊洋	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 4.0	③敷地内の緑化 2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		9.5 %
②資源の有効活用 3.6	④地域材の活用 1.0	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
③敷地内の緑化 2.0	④地域材の活用 1.0	〈外装材に使用した地域性のある材料〉
		なし
②資源の有効活用 3.6	④地域材の活用 1.0	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】江南市多世代交流プラザ

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体	
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体			
	重点項目											
Q 建築物の環境品質										3.2		
Q1 室内環境					0.40			-		2.9		
1 音環境				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0		
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	3.0	-			
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40	-	-	-			
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60	-	-	-			
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40	-	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-			
1.3 吸音				-	3.0	0.20	-	3.0	-			
2 温熱環境				0.3	2.1	0.35	-	-	-	2.1		
2.1 室温制御				0.5	3.2	0.50	-	-	-			
1 室温			平均熱貫流率 窓U=3.51W/m2K、外壁U=0.81W/m2K	3.0	3.0	0.38	-	3.0	-			
2 外皮性能				3.0	4.0	0.25	-	3.0	-			
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38	-	-	-			
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20	-	3.0	-			
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30	-	3.0	-			
3 光・視環境				0.2	3.1	0.25	-	-	-	3.1		
3.1 昼光利用				0.3	3.4	0.30	-	-	-			
1 昼光率			ハイスାଇドライトを設置	3.0	3.0	0.60	-	3.0	-			
2 方位別開口				-	-	-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備				3.0	4.0	0.40	-	3.0	-			
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00	-	3.0	-			
3.3 照度				3.0	3.0	0.15	-	3.0	-			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	-	3.0	-			
4 空気質環境				0.2	4.0	0.25	-	-	-	4.0		
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-			
1 化学汚染物質			全てF☆☆☆☆を採用	3.0	4.0	1.00	-	3.0	-			
4.2 換気				0.3	4.0	0.30	-	-	-			
1 換気量			換気量を1.4倍以上確保	3.0	5.0	0.33	-	3.0	-			
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮			給気口は各排気口から6m以上離れて設置	3.0	4.0	0.33	-	3.0	-			
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	-			
1 CO ₂ の監視			全館禁煙とする	3.0	3.0	0.50	-	-	-			
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50	-	-	-			
Q2 サービス性能				-	-	0.30	-	-	-	3.7		
1 機能性				0.4	3.5	0.40	-	-	-	3.5		
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.3	0.40	-	-	-			
1 広さ・収納性			独自	3.0	3.0	0.33	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	1.0	0.33	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	0.33	-	-	-			
1.2 心理性・快適性				0.3	4.3	0.30	-	-	-			
1 広さ感・景観 (天井高)			十分なスペースを確保、自動販売機置場を設置 多世代が集まるにぎわいの感じられる建物をテーマに計画	3.0	3.0	0.33	-	3.0	-			
2 リフレッシュスペース				3.0	5.0	0.33	-	-	-			
3 内装計画				3.0	5.0	0.33	-	-	-			
1.3 維持管理				0.3	4.5	0.30	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計			防汚性の高い内装材や耐候性塗料を外装に採用	3.0	5.0	0.50	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保			維持管理のしやすさに配慮	-	4.0	0.50	-	-	-			
2 耐用性・信頼性				0.3	3.8	0.31	-	-	-	3.8		
2.1 耐震・免震・制震・制振			②	0.4	3.8	0.48	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	4.0	0.80	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	4.1	0.33	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数				-	4.0	0.23	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	5.0	0.23	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	5.0	0.09	-	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水管:塩ビライン管 鋼管製給水管、排水管:耐火二層管を採用	-	5.0	0.15	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-	-			
2.4 信頼性				0.1	3.4	0.19	-	-	-			
1 空調・換気設備			②	3.0	3.0	0.20	-	-	-			
2 給排水・衛生設備				3.0	4.0	0.20	-	-	-			
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
5 通信・情報設備				3.0	4.0	0.20	-	-	-			

3 対応性・更新性				0.2	3.8	0.29	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	-		5.0	0.60		3.0	-		
2	空間の形状・自由さ	3.0		4.0	0.40		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	4.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1	空調配管の更新性	-		3.0	0.17					
2	給排水管の更新性	3.0		3.0	0.17					
3	電気配線の更新性	3.0		3.0	0.11					
4	通信配線の更新性	3.0		3.0	0.11					
5	設備機器の更新性	3.0		3.0	0.22					
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22						
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	4.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.6
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.78	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.30			-	4.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50				-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50				-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-		-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.3
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60			-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67				-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33				-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63		-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			② 独自	-	3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22			-
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68			-	
1	消火剤		-	-	-			-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50			-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50			-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	-	4.0	0.33			-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33		-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25			-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	4.0	0.25			-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25			-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25			-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25			-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40			-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.50			-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50			-	-	
3	悪臭		-	-	-			-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40			-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70			-	-	
2	砂塵の抑制		-	1.0	-			-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30			-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20			-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	4.0	0.70			-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30			-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)江南市多世代交流プラザ

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	3.6
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:9.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)江南市多世代交流プラザ

計画上の配慮事項	
総合	多世代交流の中心拠点として、周辺住宅に配慮しつつ、にぎわいを感じられる空間・建物デザインとした。 建物の維持管理に考慮し、耐久性の高い建物となるように配慮した。 高効率設備を採用するなど、環境負荷の低減に配慮した。 災害時の避難所として、非常用発電機、下水道直結貯留型マンホールトイレを設置した。
Q1 室内環境	外壁の高断熱性能を確保し、窓ガラスにはLow-E複層ガラスを採用した。 児童館はハイサイドライトを設置し、昼光を利用した明るい室内とした。 内装材はF☆☆☆☆を全面的に採用し、換気量も十分に確保した。
Q2 サービス性能	にぎわいを感じられるような内装デザインとした。 使用材料はメンテナンス性や清掃性に配慮した材料とした。 構造計算の重要度係数 I=1.25 とした耐震性の高い建物とした。 空調は個別分散方式とした。
Q3 室外環境(敷地内)	地域の憩いの場として、屋外イベント広場を設置した。 高木や庇を設置し、敷地内の温熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー	外皮性能の高断熱化、高効率設備の採用等により建物の省エネルギー化に考慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用、リサイクル資材を積極的に利用した。 鉄骨造として、構造体と仕上げが容易に分別可能となるようにした。
LR3 敷地外環境	基準以上の雨水流出抑制対策を実施した。 適切な台数の駐輪場の確保や敷地内の歩車分離に配慮した。
その他	特になし